

平成21年度第1回瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター
瀬戸内海区水産研究所がとりまとめた結果 －

今後の見通し(2009年5月～6月)のポイント

(1) 来遊量：

シラスは平年を下回る。

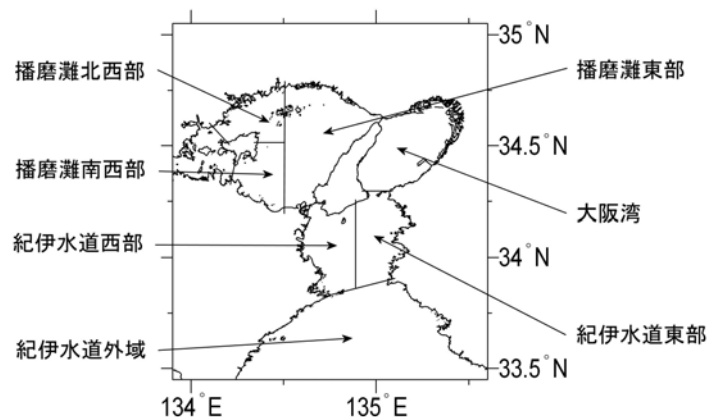
(2) 漁場：

紀伊水道では不漁であった2008年を上回るが、平年を下回る。

大阪湾では不漁であった2008年を上回るが、平年を下回る。

播磨灘東部・南西部では不漁であった2008年を上回るが、平年を下回る。

播磨灘北西部では好漁であった2008年、平年を下回る。



問い合わせ先

水産庁 増殖推進部 漁場資源課 沿岸資源班

担当：今井、和田、染川

電話：03-3502-8111(内線6800)、直通電話：03-6744-2377、ファックス：03-3592-0759

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/>

独立行政法人水産総合研究センター 瀬戸内海区水産研究所 業務推進部

電話：0829-55-3406、ファックス：0829-54-1216

当資料のホームページ掲載先URL

<http://abchan.job.affrc.go.jp/>

<http://feis.fra.affrc.go.jp/>

平成21年度第1回瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報

1. 今後の見通し（2009年5月～6月）

シラス（本年春季発生群）

紀伊水道では不漁であった2008年を上回るが、平年を下回る。

大阪湾では不漁であった2008年を上回るが、平年を下回る。

播磨灘東部・南西部では不漁であった2008年を上回るが、平年を下回る。

播磨灘北西部では好漁であった2008年、平年を下回る。

標本漁協、もしくは標本船のシラス漁獲量を各海域の指標とし（図1～3）、特に断りがない場合、1985～2007年の平均値を平年値とした。

2. 漁況の経過（2008年4月～2009年4月）および今後の見通しについての説明

(1) シラス漁況

紀伊水道東部（和歌山県側）では2008年の漁獲量は前年の90%、平年の72%であった。2008年5～6月の漁獲量は前年の84%、平年の34%であった。2009年の漁は4月23日現在、低調である。なお紀伊水道外域での漁も4月16日現在、低調である。

紀伊水道西部（徳島県側）では2008年の漁獲量は前年の89%、平年の42%であった。2008年5～6月の漁獲量は前年の74%、平年の19%であった。2009年の漁は4月24日現在、低調である。

紀伊水道北部（兵庫県側）では2008年の漁獲量は前年の143%、平年の95%であった。2008年5～6月の漁獲量は前年の45%、平年の15%であった。2009年の漁は4月8日から始まっているが、4月16日まで低調である。

大阪湾（大阪府）では2008年の漁獲量は前年の84%、平年の96%であった。2008年5～6月の漁獲量は前年の51%、平年の63%であった。2009年の漁は前年より遅い4月23日から始まった。

大阪湾（兵庫県）では2008年の漁獲量は前年の101%、平年の106%であった。2008年5～6月の漁獲量は前年の46%、平年の49%であった。

播磨灘東部（兵庫県側）では2008年の漁獲量は前年の217%、平年の106%であった。2008年5～6月の漁獲量は前年の52%、平年の44%であった。

播磨灘南西部（香川県側）では2008年の漁獲量は前年の94%、平年（1989～2007年の平均値）の132%であった。2008年5～6月の漁獲量は前年の39%、平年の59%であった。

播磨灘北西部（岡山県側）では2008年の漁獲量は前年の184%、平年（2000～2007年の平均値）の293%であり、2000年以降で最も好漁となった。2008年5～6月の漁獲量は前年の129%、平年の266%であった。

(2) 薩南～紀伊水道外域での産卵量等

中央水産研究所、瀬戸内海区水産研究所がとりまとめたカタクチイワシの産卵状況では2月、3月とも日向灘～紀伊水道外域で産卵が認められた。日向灘～紀伊水道外域における2009年1～3月の合計産卵量は178兆粒（前年比334%、平年比156%）であった。

和歌山県農林水産総合技術センター水産試験場が行った2009年2～4月の紀伊水道外域東部における定線調査では、LNPネットによるカタクチイワシ卵採集数は2月に1.6粒／網（前年採集なし、平年比13%、平年値＝1999～2008年の平均値）、3月に11.3粒／網（前年比600%、平年比21%）、4月に5.6粒／網（前年比149%、平年比12%）であった。紀伊水道東部では3月に0.1粒／網（前年採集なし、平年比70%）、4月に1.2粒／網（前年比1,714%、平年比308%）であった。

徳島県立農林水産総合技術支援センター水産研究所が行った2009年2～3月の紀伊水道外域西部における

定線調査では、カタクチイワシ卵密度は2月に67粒/m²（前年比4,156%、平年比205%）、3月に27粒/m²（前年比56%、平年比27%）であった。カタクチイワシ仔魚密度は2月に35個体/m²（前年採集なし、平年比853%）、3月に49個体/m²（前年採集なし、平年比123%）であった。紀伊水道西部ではカタクチイワシ卵は2～3月に採集されなかった。仔魚は2月に採集されなかったが、3月に14個体/m²（前年比1,135%、平年比164%）であった。

(3) 今後の見通しの説明

シラス（本年春季発生群）

4月26日現在、黒潮は都井岬沖で接岸、足摺岬～潮岬沖でやや離岸している。豊後水道外域、土佐湾および紀伊水道外域には黒潮系暖水の波及が見られる。各岬における黒潮離岸距離の変動傾向と水産総合研究センターの海況予報モデル(FRA-JCOPE)の予報結果を併せて考慮すると、黒潮は5月前半まで潮岬沖でやや離岸する傾向を示すが、その後は接岸して推移すると予想される。

紀伊水道の春季シラス漁は紀伊水道外域での産卵量と来遊環境に主に依存する。紀伊水道外域でのカタクチイワシ卵は前年を上回り、平年を下回る海域が多かったが、仔魚は2～3月に多くみられた。仔魚は紀伊水道でも3月に前年、平年を上回った。来遊環境は現在のところ良くないが、今後は徐々に好転すると考えられるので、不漁であった前年を上回るが、平年を下回ると予測される。

大阪湾および播磨灘の春季シラス漁は紀伊水道および外域でのシラス現存量と来遊環境に主に依存する。現在、紀伊水道および外域でのカタクチイワシの漁は低調であるが、カタクチイワシ仔魚は多くみられている。来遊環境は現在のところ良くないが、今後は徐々に好転すると考えられるので、大阪湾、播磨灘東部および播磨灘南西部では不漁であった前年を上回るが、平年を下回ると予測される。播磨灘北西部では好漁であった前年、平年を下回ると予測される。

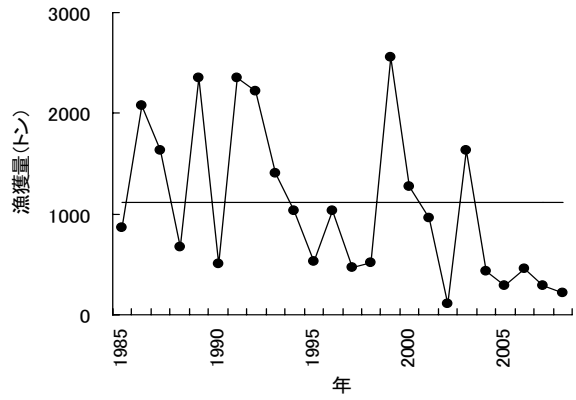
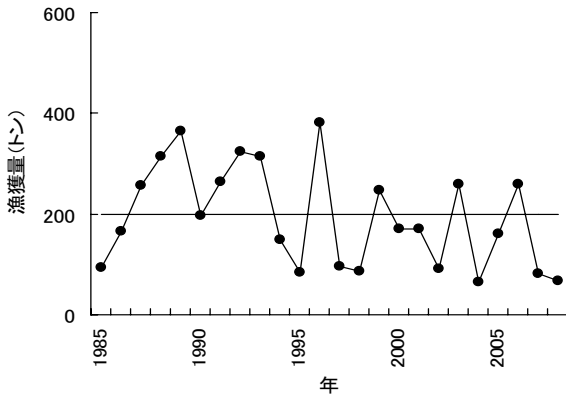


図1 紀伊水道東部（和歌山県側：左図）および紀伊水道西部（徳島県側：右図）の標本漁協における5～6月のシラス漁獲量（実線は平年値を示す）

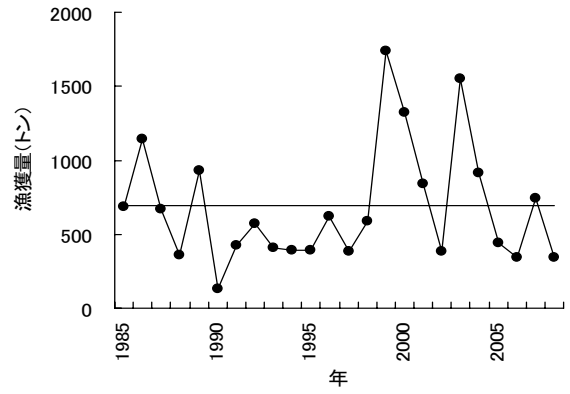
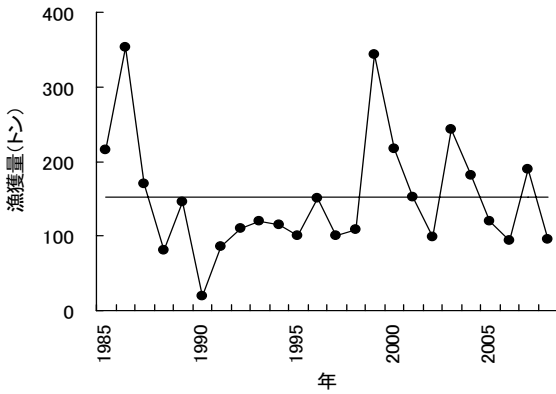


図2 大阪湾（大阪府：左図、兵庫県：右図）の標本漁協における5～6月のシラス漁獲量（実線は平年値を示す）

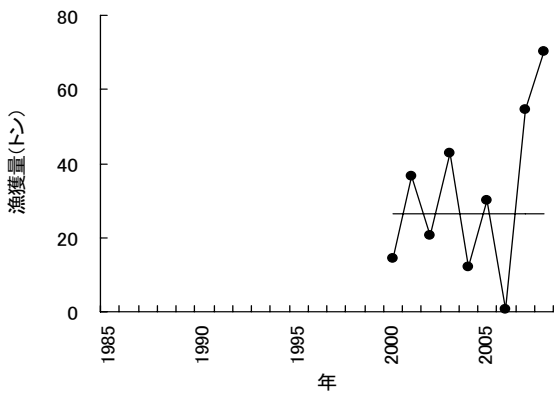
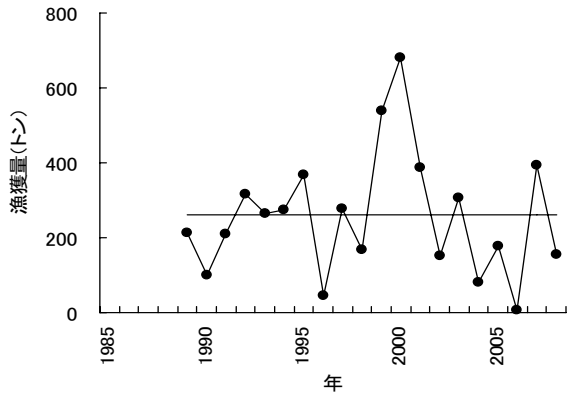
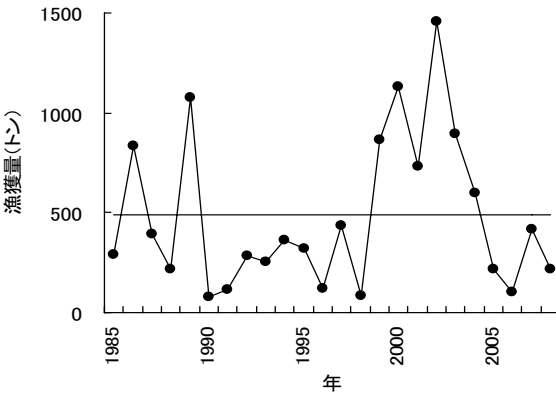


図3 播磨灘東部（兵庫県側：左上図）、播磨灘南西部（香川県側：右上図）の標本漁協における5～6月のシラス漁獲量、および播磨灘北西部（岡山県側：左下図）の標本船における5～6月のシラス漁獲量（実線は平年値を示す）

参画機関

和歌山県農林水産総合技術センター 水産試験場	香川県水産試験場
大阪府環境農林水産総合研究所 水産技術センター	徳島県立農林水産総合技術支援センター 水産研究所
兵庫県立農林水産技術総合センター 水産技術センター	水産庁 増殖推進部 漁場資源課
岡山県水産試験場	独立行政法人 水産総合研究センター 中央水産研究所 瀬戸内海区水産研究所